

学校図書館支援センター通信 N0.52 2月号

平成23年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

第3回 学校図書館ネットワーク会議

今年初めての積雪となった1月24日に、今年度最後のネットワーク会議が開催され、学校図書館を活用して行われた、2つの実践が発表されました。

1つ目は、夏に行われた第2回ネットワーク会議で話題に上がった「幼稚園・小学校・中学校」の連携についての発表です。塩焼幼稚園・塩焼小学校・妙典中学校の先生方と学校図書館員の方に、それぞれの園や学校の取り組みについて、リレー方式で発表していただきました。



幼稚園から小学校への滑らかな接続が求められている今、塩焼幼稚園では、園児が小学校に入学した後も多い学習が展開できるように、小学校との段差をなくすのではなく、園児一人ひとりがその段差を乗り越えて成長することを目指して、日々の保育を行っているそうです。

その一つが、塩焼小学校との連携で「にじいろの会」を通じた交流です。小学校が中心となって行う、読み聞かせを通じた活動ですが、この活動を通して園児の心に小学校への期待やあこがれが芽生えているようでした。小学生には園児への思いやりの心や、上手に読もうとするプライドが生まれ、お互いが刺激し合って相乗効果を発揮しているようです。また、それらの体験をした子どもたちが中学生となり、妙典中学校では保育実習や公共図書館での職場体験へと活動を広げていました。

「読み聞かせ」という、どの園や学校でも行われている活動が、幼稚園・小学校・中学校へと受け継がれていく中で、子どもたちの学ぶ意欲や力に変わっていく様子を感じられる発表でした。

2つ目は、大洲小学校による新しい単元に取り組んだ「伝統的な言語文化」についての実践発表でした。こちらの発表内容については3月号で詳しくご紹介します。

2つの発表から、市川市では学校図書館を活用して学習を展開することが、当たり前のように行われているという実態を改めて感じることができました。今後も多くの学校で、教育課程において日常的に学校図書館の活用が取り入れられるような実践を重ねていただきたいと思います。



【参加者の感想より】

幼稚園での様子が分かって、とても参考になる研修でした。幼小の連携は、どの学校でも必要だと思います。このような読み聞かせを通じた連携を行ってみたいと感じました。（小学校）

小学校の実践発表に、中学校の古典の学習と似た部分を感じました。中学校でどのような授業を進めるのかを考えたとき、ますます小中の連携の必要性を感じました。（中学校）

お知らせ

中央図書館から、特別支援学級・学校用に「触れて楽しめる布の絵本」の貸出が始まります。この絵本は、ボランティアの方が一つずつ手作りして下さった作品です。見ているだけで、楽しくなるものばかりです。詳しい貸出依頼の方法は、中央図書館からのメール等でご確認ください。ただ今、お試し期間中ですので、ぜひ一度借りてみて子どもたちに触れさせてあげてください。（担当：中央図書館）



続・路子の部屋

No.4 まとめて発信する その2 「プレゼン用カード」で簡単に「作文指導」！



作文指導では「はじめ（序論）」「中（本論）」「終わり（結論）」の構成をしっかりと教える必要があります。今回は「プレゼン用カード」を使った作文指導を紹介します。

グループで交流をする時に、メモは作らずに「プレゼン用カード」だけを使って、書いた内容をそのまま相手に伝えます。「プレゼン用カード」は、構成を考えて作ってあるので相手に内容を伝える時に威力を発揮し、伝えた（話した）言葉をそのまま書き言葉に換えて作文に書くことができます。話した後に作文を書くと、頭の中に言葉ができあがっているの、すらすらと書けます。

12月号で提示したカードの事例2の文を並べてみましょう。

- | | | |
|-----|--|-----------|
| 1枚目 | 「みそ汁は、なぜ、体に良いのか。」 | ……題名 |
| 2枚目 | みそ汁が日本人に愛されるだけでなく健康食と言われるのは、みそに秘密があると思ひ、調べてみたいと思った。 | ……はじめ（序論） |
| 3枚目 | みそは脳細胞の食べ物といわれるレシチンをたっぷり含む「頭脳強化食」である。 | ……中（本論）の1 |
| 4枚目 | みそは老化現象に待った！をかける成分が含まれている。 | ……中（本論）の2 |
| 5枚目 | みそは「発酵食品」で、発酵によって、原料の大豆、米、麦のもとと持っていない物質が作り出され、それがさまざまな効用を持つ。 | ……まとめ（結論） |

こうして並べただけでも作文になっていますが、注意するポイントが2つあります。

- 1 カード1枚で1つの段落とする。
- 2 カードを変えたら、文の最初を一マス下げる。（段落指導）

この方法は、実際に市内の先生が作文の授業で実践しました。低学年でもクラスの全員が短い時間で書けました。欲張らず、「300字～400字」（原稿用紙1枚程度）でやってみましょう。

※これは、塩谷京子氏（関西大学小中学部司書教諭）が市川で紹介されたスキルです。

図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

塩浜小では、1月の第2週目から約1ヶ月かけて、全校で「百人一首」に取り組みます。

五色百人一首の青色カードを中心に、声に出して覚えたり暗記したりとクラスごとに練習に励んでいます。小規模校（全7クラス）ということもあり、二人一組で練習できる数の百人一首を学校で用意し、全学年で練習しています。

2月3日のオープンスクールでは、地元マンションの「百人一首の会」の方が、予選の時に和歌を詠んで下さり、地域の方との交流も、子どもたちの楽しみの一つとなっています。

※五色百人一首とは…100枚の百人一首のカードを20枚ずつに色分けして、色別に覚えられるように工夫された百人一首です。 【市川市立塩浜小学校 学校図書館員 星川 弘恵】



『学校図書館支援センター通信』は、市川市教育センターホームページでもご覧いただけます。市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）
〒272-0015 千葉県市川市鬼高1-1-4
TEL 047-320-3335 FAX 047-320-3352
<http://www.ichikawa-school.jp/index.html>

